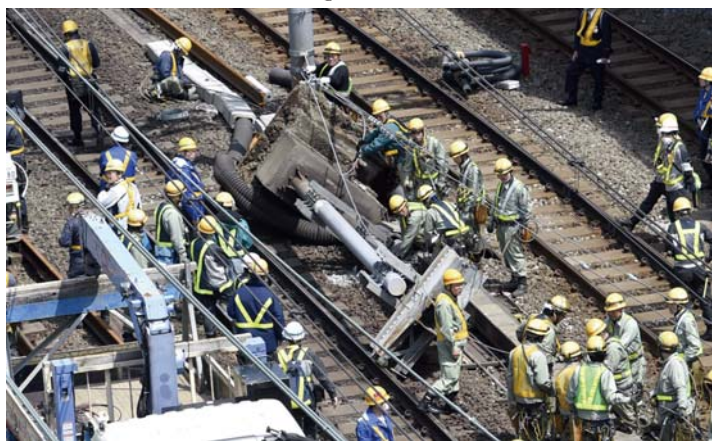


デタラメな会社  
闘わない労働組合



# もう我慢も 限界だ!



山手線事故は安全無視の外注化・労働強化の結果であり、JR東日本の崩壊の始まりだ

## 「要員を増やせ！」は職場全体の声だ!

3月ダイヤ改・上野東京ライン開業から2カ月が経過した。作業量は大幅に増加したにもかかわらず、会社は清掃車両数は減ったと言って何の対策も打たれていない。暑い夏が始まっているなか、要員を増やさなければ、熱中症、過労死が発生しかねない状態だ。

そうしたなか、籠原の清掃職場では「車両清掃の要員を2チーム(6名)増員すること、大幅な賃上げを実現すること」の2点を求める署名運動が広がっているという。動労連帯は、この署名運動に全面的に賛成だ。この趣旨に反対の清掃職場労働者はいない。この署名に協力しない者は、職場を良くするよりも自分さえよければいいという考えの者だ。今必要なのは、職場の皆が団結して、一つの声にして会社に対して要求をたたきつけることだ。声をあげないでは何も動かない。

本来、こうした要求行動は、労働組合が積極的に先頭を切って取り組むべきだが、籠原清掃現場の労働組合(TTS労働組合)は、

## 労働組合は何のためにあるのか?

労働組合とはなんのためにあるのか。労働の考え方は対立するのが当然だ。会社は利益が最優先。労働者は、自分と家族の健康と生活を守ることが最優先。労働組合は、会社のためにあるのではなく、労働者とその家族の健康と生活を守るためである。働きやすい職場にする、労働条件を向上させるために労働組合はあるのか。労働者の健康と生活を守るためである。労働者は、自分と家族の健康と生活を守ることが最優先。労働組合は、会社のためにあるのではなく、労働者とその家族の健康と生活を守るためである。働きやすい職場にする、労働条件を向上させるために労働組合はあるのか。

## 辞めても問題は解決しない

要員増の要求も、大幅賃上げの要求も譲れない要求だ。このままでは、過労で死ぬか、会社を辞める人が出るだけだ。辞める人が出れば、仕事はもっと過酷になる。辞めて他にいつてももっと良いところがあるかという決断してそうではない。労働者の団結した力で、この職場の労働条件を良くすることが根本的打開の道だ。

## 外注化は低賃金化、非正規化だ

動労連帯高崎も、上部団体の動労総連合も、外注化に反対してきた。なぜ反対してきたのか。外注化は、本来はJR本体がやるべき業務を、下請けに出す(外注化

国鉄1047名解雇撤回へ  
国鉄闘争全国運動の本格的発展を  
動労総連合を全国につくろう!

### 国鉄闘争全国運動6・7全国集会

6月7日(日) 0時30分開始(11時30分開場)  
東京・日比谷公会堂  
(呼びかけ) 国鉄闘争全国運動

する)ことで、JR本体職員の労働条件に比べれば圧倒的な低賃金と劣悪な労働条件で働かせることを可能にしてしまうからだ。

国鉄(1987年の国鉄分割・民営化)によってJRとなる以前の経営)当時は、便所掃除からなにから何まで全て国鉄が直接業務を行っていた。賃金は少なくとも、今よりは身分も安定していて、生涯年収でいえば、現状よりもはるかに良かった。ところが、JRになつてから、とりわけ2000年以降、車両・駅清掃や構内運転業務などあらゆる業務の外注化が進められ、JRの職場で働く労働者の約6割は、外注会社(下請け会社)の低賃金かつ不安定な身分の非正規労働者になつている。年収200万にもいかない「JRワーキングプア」が激増している。JRだけではなく、社会全体の非正規化が進み、結婚もできない、将来設計ができない青年労働者が激増している。この現実と闘つてこそ、労働組合だ。

## ■ 動労連帯に結集して職場環境を改善しよう！

JR東労組も、国労も外注化に絶対反対では闘わない。東労組、国労が闘わないことによって、労働条件は悪くなる一方だ。動労連

帯は、職場の要員増・賃上げの要求を支持し、実現するために闘う。

4月冒頭、動労連帯と同じ、動労総連合所属の動労神奈川が、東京上野ラインの先の

小田原で結成された。彼らの中心は、環境アクセスの清掃労働者で、籠原と同じく上野東京ライン開業以後、業務量は激増している。ところが、コスト削減のために要員は減らされている。そのため環境アクセスの管理職は、「清掃しなのまま折り返して構わない」と指示している。車両が汚いのはそのためだ。小田原の仲間に責任があるのではなく、ダイヤ改にもなう業務増にみあつた要員増をJR会社本体が拒否しているために、環境アクセスもTTTSも要員増を行わないからだ。

動労総連合傘下の動労連帯に結集し、上野東京ラインの動労神奈川とも連帯して闘ったときに、要員増は実現できる。

ともに闘おう！

# 「業務量は増えてない」「清掃車両は減だ」だと！？ TTTSはウソをつくな！ 幹部は現場に来てやってみろ！

動労連帯の春闘申し入れに対して、高崎鉄道サービス(TTTS)は、3月ダイヤ改正にともなつて「業務量の増減はない」(!)「清掃両数は減である」(!)という、とんでもない大ウソの回答を示してきた。(表1 参照)

TTTSが各事業所の現実の業務実態をなにも把握していない、いや把握する責任感さえ喪失していることがはっきりした。ふざけるのもいいかげんにしろ！TTTS幹部は現場と一緒に作業してみろ！

3月4日に示されたTTTS籠原事業所の構内作業向けの「平成27年3月14日ダイヤ改正の概要」という説明資料には、併合本数では平日+9、休日+6、分割本数では平日+9、休日+7、と明白にかかれていた。

また、車両清掃向けの3月14日付「清掃作業ダイヤ等」の「ダイヤ改正現改比較」には、日常：平日昼+15、夜-5、簡易：平日昼+40、夜-5、補水：平日昼間+34、夜+1、駅折れ：平日昼+15、と明白に書かれているのだ。

このどこの「業務量の増減はない」「清掃両数は減」だということか。ウソもいいかげんにしろ。TTTS幹部は自分の出世と保身しか考えていない。働いている現場を想像する感覚さえ失っている。管理職として失格だ！

TTTSはただちに、増加した作業量に対応した要員を確保しろ！現場から怒りの声をあげよう！

### 《表1》

#### 3 今次ダイヤ改正について

##### 【1】 構内・運転業務受託について

① 構内全体の業務量の増減について明らかにされたい  
業務量の増減はない

##### 【2】 清掃関係について

① 清掃両数の増減について明らかにされたい  
清掃両数は減である。

(「動労連帯申第3号 申し入れ」へのTTTS回答より)